

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1270401027		
法人名	有限会社 高齢者介護センター		
事業所名	グループホーム宮田		
所在地	千葉県千葉市若葉区中田町1041-1		
自己評価作成日	平成25年 2月10日	評価結果市町村受理日	平成25年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	千葉県我孫子市本町 3-7-10		
訪問調査日	平成25年2月27日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

【利用者が長期にわたり、安心かつ快適に暮らせる共同生活の場として機能するよう頑張ります】を当施設の理念として、職員一同 明るく元気に利用者さんに接しています。特に力を入れている点は【温かい雰囲気、家庭的なグループホーム】を維持して行く為、全職員一丸となり、日々、サービス提供を行っております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

これまでは平成17年に代表者の自宅を改造して立ち上げた、木造平屋建ての民家型1ユニットのホームであったが、平成24年11月1日に同じ敷地内に2階建て、2ユニット対応の新しい建物が完成し移転した。広くて近代的な建物に変わったが、お風呂には薪炊きのボイラーを備えるなどこれまでの温かい雰囲気を残している。ホーム長も若手の職員にバトンタッチし、これまでの雰囲気を残しつつも運営面では新しい手法も取り入れて、明るい雰囲気に満ちている。毎月発行の「宮田だより」には写真が多用され、報告事項も分かりやすく掲載されており好評である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が長期にわたり、安心かつ快適に暮らし続ける事を支援し、サービスとして、実践している。	理念をホームに掲示するとともに、パンフレットにも分かりやすく記載し関係者で共有している。また、「いきいき、のんびり、あたたかく」を合言葉に安らぎのある生活を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	12月にグループホーム宮田クリスマス会を開催して、地元地域の方々に御越し頂き、交流の場として活用している。	法人代表は過去に自治会や自治会連合会の会長を務められるなど、地域とのパイプは太い。運営推進会議にも自治会長や老人会長等の参加を得て、行事などでも交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩に出かけた時に、地域の人々に挨拶や声を掛けて、元気である事を理解して頂き、支援方法として活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、推進委員の方々に利用者状況やサービス提供の近況を報告し、議題として話し合い、意見交換をした結果を今後のサービスの質の向上に活かしている。	運営推進会議は今年から2か月に1度開催し、利用者の状況、健康管理、建物の建て替えなどについて都度報告し話し合い、理解を深めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	当事業所の実情やケアサービスの取り組みについて若葉区担当者に伝えて、協力関係を築くようにしている。	日頃高齢者支援課や社会援護課等関係部門と連携を取っているが、今年は特にホームの新築、2ユニット化等の手続きもあり、これまで以上に関係各部門のアドバイスをいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。緊急やむを得ない場合は、家族の許可を得て、記録する。	新しいホーム長は身体拘束廃止の県の研修を受講し職員と知識や技術を共有している。やむを得ない場合の手順も確認・整備しているが、見守りなどにより身体拘束しないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	千葉県高齢者権利擁護・身体拘束廃止研修に参加したり、当施設では、拘束・虐待・0宣言をモットーに事業所内での虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネジャーより権利擁護に関する日常生活自立支援事業や成年後見制度について説明を受け、それらを活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約解除の際は、御家族等に十分な説明を行い御理解、納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族等の意見や要望等も当施設運営に反映させられるように努めている。	本人の要望をくみ取るように努め、出来る限り受け入れて対応している。来訪のある家族には面会時に良く話し合い相互理解に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼で職員の意見・提案を出し合い施設運営に反映させている。	ホーム運営に関する事項は主として毎日の朝礼時に話し合っている。介護計画などに関連する事項は毎月のサービス担当者会議時に話し合っている。	ホーム長は今回ご昇格で就任されたので、職員とはこれまで築かれた信頼関係を基に、今まで以上に話し合い、ホームの発展に尽力されること期待したい
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、各職員が向上心を持って働ける職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は常に、向上心を持ち各研修に参加するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、同業者との交流を通じて、サービスの質を向上させていくように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は、利用者の安心を確保する為の雰囲気作りや信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員は、家族等が困っている事、不安な事、要望等に答えられるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族等が、必要としている要望には、早急に対応できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、家族的な雰囲気を利用者を支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族と共に「家族の絆」を大切にしながら、利用者を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が大切にきて来た馴染みの人や、場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知り合いの方が見えた時は寛いでもらう雰囲気づくりや、故郷の話等を聞いたりすることもある。ひな祭りや鯉のぼりなど子供の頃から馴染んだ季節行事を、各月の行事に取り入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者同士の支え合いが、出来る雰囲気作りや、支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでのサービス利用の関係性を大切にしながら、必要に応じては、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人々の思いや、利用者の希望に出来るだけ応えられるように検討しながら、意向の把握に努めている。	約8割がひとり暮らしの方である。普段から本人の思いや意向を聞きながら、出来るだけ希望に添った支援に繋がるよう把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人々の生活歴、アセスメントにてこれまでのサービス利用経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの現状は、介護記録、ケアプラン等に記録する事で把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議にて意見交換をし、本人の意思も尊重しながらそれを反映させて、介護計画書を作成している。	利用者担当制を採っており、本人の希望と日々の記録や気づき等を基に、計画担当と職員間で意見交換し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録・介護支援経過を活用し、介護計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活の質を一定以上のレベルまで到達、維持又は、回復する為に必要なものに対応して、柔軟な支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の運営推進委員の協力を得て、安全な暮らしを楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療受診は御家族の承諾を得て、提携先医療機関で定期的に、受診している。	入居に際して協力医療機関での受診の承諾を得て、職員同行で定期的に受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関の看護師に相談しながら、利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携先医療機関の関係者と情報交換や相談をしながら、入退院時に備えた関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族のいる利用者は、家族と話し合い、提携先医療機関にも重度化した場合や終末期のあり方について、方針を共有し、支援に取り組んでいる。	現在のところ看取りまでは行っていないが、医療行為になる寸前までは対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置の初期対応の実技を定期的に行い、実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年一回、地元消防署に協力を要請して、防災避難訓練を行っている。	24年11月にスプリンクラーや外付けの広い避難階段も完備した新館に移った。毎年1回消防署指導の防災訓練を実施しており、本年は3月に新館に移って初めての訓練を予定している。	防災設備が完備した新館に移ったが、避難方法についてはこれまでとは違った工夫が必要となろう。関係者全員で原点に戻り検討をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、プライバシーを侵害しない声かけや対応を行っている。	馴れ馴れしい言葉使いや突然の声掛けはしないなど、一人ひとりの人格や好みを大切にしている。トイレや入浴時にもプライバシーに配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が希望や思いを自己決定出来る雰囲気作りをしながら、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の日々のペースを大切に、希望にそったその日の過ごし方を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人々の要望に合わせた身だしなみやおしゃれが出来るように、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今現在、一部の利用者と職員と一緒に食事の準備や後方付けをしている。	出来る方はテーブル拭きや配膳・下膳など一緒に行っている。個々の状態に応じ、食態の工夫や食事介助を行っている。また誕生会を兼ねたバイキングや外食にも出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事・水分摂取量をチェックし介護記録に記入して、状態、能力に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、利用者一人々の口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人々の力に応じて、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンを把握し声掛けし、トイレでの排泄を支援している。夜間オムツの方も日中はトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や散歩に出かけたり利用者の力に応じた便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の意思を尊重し、個々にそった入浴を楽しめる支援を行っている。	週2回を基本としている。新しい浴槽は薪で焚くウッドボイラーの給湯方式で、柔らかいお湯が利用者に喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状況に応じて、利用者が、休息したり、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、利用者一人々が服用している薬の用途が何時でも分かるように薬歴を確認し、服薬の支援と症状の変化の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人々の力を活かした役割、遊具等を使い、楽しみ事や気分転換の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者一人々の希望を把握し、戸外に出かけたり、又、本人の希望により、お墓参りに出かけている。	天気の良い時は近くを散歩している。途中、近所の方に挨拶したり、果物を戴いたりなど地域に溶け込んでいる。車で花見や外食などにも出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭感覚を認知症の影響で無くしている為、本人の管理が難しいので、職員が一時預かり、利用者本人と一緒に買い物に行きお金を使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りは、本人の希望に応じて、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、工夫しながら又、利用者によっては、不快音や光、温度が不愉快になる事もある為、特に配慮し、居心地よく過ごせるようにしている。	新館は居間が広く採光も良くなった。利用者は最初戸惑いがあったそうだが、今はすっかり慣れてゆったりと過ごしている。癒し犬のペットも2匹いて、抱っこをして寛ぐ姿も見られ微笑ましい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、利用者一人々が、思ったように過ごせる居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人が使い慣れた物を置いたり、快適に居心地良く、過ごせるように工夫している。	使い慣れた筆筒や小物等を好みに配置し、居心地良く過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人々の力に応じて、出来る限り、自立した生活を送れるように工夫している。		